

なると考えた。そこで、前期の16の係名を板書し、係の名称と活動内容に対する意見、新しくつくりたい係についての意見を発表させた。その結果、後期は、3の係を新設し19の係でスタートすることになった。

学習	—郵便	生き物	—スイミー
作品	—ペタペタ	黒板	—クリーン
本	—アンデルセン	体育	—筋肉もりもり
保健	—ナイチンゲール	運動着	—同
落し物	—こうばん	片付け	—同
クロッキー	—同	給食	—同
連絡	—お知らせ	電気	—ぴかぴか
花	—同	ベルマーカー	—同
しずか	安全パトロール	あいのメッセージ	

「スイミー」「ぴかぴか」など活動内容がすぐわかる楽しい名前をつけることができた。

② その子だけに通じる継続的な言葉かけ

N男は、仕事が嫌いであり、さぼることが多い児童であった。前期に10回書かせた「気づく」に、何もないと8回書いてきた児童である。

そこで、郵便係になった後期では、「気づく」にできるだけ彼の行動を具体的に賞賛し、仕事の内容についての助言を継続的に行った。2週間は変化がなかったが、10/14ころから変化が見られるようになり、10/21になって、自分から漢字帳を配るようになった。

10/2 だいちゃんに算数ドリルをいわれてやってしまった。「大ちゃんが声をかけてくれたのですね。今どはN君が声をかけてね。」

10/12 気づくについて先生にいわれてやっちゃったです。「自分からできることは、どんなことかもう一度考えてごらん。」

10/14 本よみカードがなかったと思ったらはこの中であつた。「そうです。気づきましたか。アンデルセン係の人が今日作ってくれました。」

10/1 本よみをわたそうと思ったらだれか

がやっていた。「いつもだれかがやってくれるだろうと思ってはいけなね。はん長のつもりでやってごらん」

10/21 きょうかん字のおけいこちょうをわたしてつかれた。「ごくろうさん」

10/25 みやざきくんが気づくのプリントをわたしていなかったから、ぼくがわたした。

「ごくろうさま。」

11/2 気づくをわたした。「ありがとう」

以上のような継続的な言葉かけは、N男の活動に対する意欲づけに有効であった。

③ 帰りの会で活動の様子を紹介

あいのメッセージ係のA子は前期の「気づく」には何もないと書いてくる日が多くみられた。

10月15日の帰りの会でA子の仕事や「気づく」の内容を紹介した。以来、休んだ児童や顔色が悪い児童に対する思いやりの心遣いが見られるようになってきている。また、「気づく」の内容にも、成長がみられる。

・・・略・・・ Hちゃんがおなががいたいそうだったのでとてもしんばいで、あしたやすまなかったらとてもいいなおもいながら一日いました。「Hちゃんの顔色よくなかったね。しんばいしてくれてありがとう。」

紹介されたH子は、次の日A子に対する感謝の気持ちを書いてきた。

この係は、欠席した児童に連絡のメモを書くことを仕事の内容としていたが、日がたつにしたがつて、ポスターを書いて健康を訴えたり、連絡カードを工夫して作成するようになった。

④ 係活動のための教室環境の整備

A 係活動の発表の場

クロッキー係の児童を進行役にして、児童の作品の発表会を開催した。係のK男はこの日、次のような気づくを書いてきている。

きょうクロッキーでミニミニはっぴょうか